

つどい

第 442 号
2025.8.1発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

神婚伝承の成立と展開

日本書紀研究会会員 中井 かをり

はじめに

神婚伝承というのは神の婚姻に関する伝承です。男性の神と女性の神の婚姻（イザナキ・イザナミの婚姻など）、男性の神と人間の女性の婚姻（三輪山伝説の大物主と活玉依毘売の婚姻など）、女性の神と人間の男性の婚姻（海神の女の豊玉姫と彦火火出見（山幸）の婚姻など）があることになりました。神婚伝承は神には性別があることが前提となっています。

一般的に、神婚伝承は、神と神に奉仕する（神の祭祀をする）巫女的な女性との婚

姻の伝承とされてきました。それは、柳田国男氏の「妹の力」に代表される、女性は神秘的な力をもつ故に、神の祭祀をするのは女性の役割であるとする考えに基づきます。伊勢神宮の齋宮や賀茂社の齋院などの存在と相まって、神の祭祀は神秘的な力を持つ女性の役割とした上で、祭祀において女性と神とが性的な関係を結ぶと説かれ（折口 a・b）、神と神に奉仕する女性が婚姻するとされてきました。

しかしながら、今日までの研究で、古代において神の祭祀は女性のみの役割ではな

く、一対の男女によって担われていた（岡田、義江 b ら）こと、伊勢神宮の祭祀は齋宮の存在とはかわりなく行われ（西牟田）、齋院は賀茂社古来の祭祀である御阿礼神事には関与していない（三宅）こと、などが明らかにされています。女性には神と交わる神秘的な力があるとする考えに対しても疑問が出されています（義江 b・c、伊集院ら）。これらのことから、神婚伝承についても、これまでの考えとは異なった理解ができるかと考えています。

ここでは、神婚伝承がどのようにして成立したのか、そして、それがどのように展開されてゆくのか『風土記』や『古事記』『日本書紀』に記述されている伝承をもとに、歴史の流れの中で考えてみたいと思います。

神婚伝承の成立と展開 中井 かをり
豊中市立郷土資料館見学 小川 滋